

10号達成!  
これからもよろしく  
お願いします!

産大生と地域のかけ橋

# ローカレッジ

## Local × College

田んぼアートの  
「えちゴン」だゴン!



＼7年間ありがとう!／

### 特集! まちかど研究室

クロージングセレモニー・えんま市  
旧店舗最後の七夕イベント大盛り上がり!  
新拠点 <K.Vivo>・柏崎高校「KSP I」

【特集2】地域に学び、地域をおこす

### 地域理解ゼミナール

2019年度より新規開設!!



### ぎおん柏崎まつり

### たかだ竹あかり

アグリ・フードビジネス分野

金ゼミナール活動紹介

### 地域連携活動ニューストピックス 2019 夏～秋

田んぼアートに挑戦! / 大正大生と大洲まちあるき / 長岡「あいキャン」

# 7月26日 海の大花火大会



まちかど研究室は花火の見える場所から約徒歩5分程度です。夏の風物詩である甚平や浴衣を着て飲み物やコラボ商品など販売しました。ラムネに浴衣に花火も見ることができ、楽しい思い出ができました！

## まち研販売



柏崎観光大使も遊びに来てくれました！

柏崎まつりでの物販でした。ゼミ生は浴衣や甚平などを着て販売し、協力し合いながら楽しく販売することが出来ました。当日はとても暑かったこともあり、ドリンクの売れ行きがよく、地域の方々とも接することができ、長年お世話になった店舗での印象深い日になりました。  
(文科経済学科3年 吉川由)



花火会場である夕日のドーム付近では郷ゼミナールの学生が会場販売をしました。レモンサワー・ハイボール・巨峰サワー・ハワイアンブルの4種類のアルコールドリンクを販売し、一番人気は巨峰サワーでした。またお酒のカップにはオリジナルのラベルを作って貼りました。郷ゼミでは初めての挑戦であり、失敗もありましたが、大学生として貴重な経験をすることができました！  
(経済経営学科4年 中村美架)

## 会場販売



## 八坂神社BBQボランティア

今回、学友会の有志3名で「柏崎祇園祭」発祥の地、八坂神社で開催されたBBQイベントのボランティアに参加しました。このイベントの目的は「同じ日にある柏崎花火をBBQをしながら楽しみたい」というもので、当日は天気もよくとても綺麗な花火を見ることができました！ 仕事内容は会場設営や受付をしました。

主催の方から「是非来年も来て欲しい」と言っていたので、ぜひ来年に繋がりたいです。  
(文科経済学科1年 本間陸斗)

# 7月25日 たる仁和賀

## 産大神輿



記念すべき令和初の「たる仁和賀パレード」。今年の産大神輿は、先導者であるサッカー部の伊東郁哉くんを中心に、サッカー部、卓球部、空手道部、留学生による精鋭57名が心を一つに、元気にパレードに参加！口上では空手道部主将の永井砂南さんが「板割り」を披露すると会場は一層盛り上がりました。

今年のたる仁和賀では、水球部に所属する学生はブルボンウォータースポークラブ柏崎のお神輿の担ぎ手として参加しました。県外からの進学者の多い新潟産業大学水球部ですが、柏崎の祭りを盛り上げようと、毎年この時期を楽しみにしています。水球ならではの工夫を凝らしたお神輿が担げたこともあり、楽しく参加することが出来ました。  
(文科経済学科4年 高橋 堅登)



# ぎおん柏崎まつり

7月24日から26日に「ぎおん柏崎まつり」が開催されました。柏崎の夏を象徴する一大イベントであり、新潟産業大学からも例年以上に多くの学生が参加しました。



## 水球神輿



取材・デザイン：笠原如乃

# 新潟産業大学 × 新潟工科大学 まちかど研究室



ありがとう！  
まち研！

柏崎市からの委託事業で、新潟産業大学と新潟工科大学が共同で運営してきた空き店舗活用事業、「まちかど研究室」。平成30年度末をもって委託事業が終了し、今後は各大学の独自事業として継続していくことになったため、7年間お世話になった現拠点での活動を終了することになりました。

## 第一部

### まち研クロージング セレモニー!!

7月20日(土)、まちかど研究室にてクロージングセレモニーを開催しました。第一部はまちかど研究室の活動を支えてくださった地域の方と、両大学の学生、教職員が出席しました。最初に新潟工科大学の大川学長と新潟産業大学の阿部地域連携センター長からご挨拶を頂きました。その後、本学4年生の五十嵐滉貴さんと小川琴音さん、工科大学3年生の水落優花さんがスタンプラリー@商店街や柏崎PR動画、まち研カフェなどこれまでの活動成果報告を行いました。

続いて、まち研運営委員である新潟工科大学黒木准教授による挨拶、そして新潟産業大学の権田講師からお言葉を頂きました。権田講師は「両大学の多くの教員や学生の協力を得て、いろんな形で利用されアットホームな雰囲気で活用することができ、とても嬉しく感じた。まち研というブランドを2大学共同で活動し広めることができ

大きい価値につながった。現拠点から退去してしまうことで空き店舗を増やしてしまう事に心苦しさや迷いを感じるが、商店主の方々とこれまでに築いた関係を大事にしていきたい。」と抱負を語りました。

### 小川理事長 「学生に感謝」

最後に、大川工科大学長から小川理事長に感謝状を贈呈しました。小川理事長から「まちかど研究室を開くと伺った際、何をやるんだろうなというワクワクした気持ちだった。まちが寂しくなる中で一店舗でも新しい灯りがついていくことが何より



▲表彰を受けたニコニコ商店街の小川理事長。

嬉しい。若い力で商店街を良くしていただけたことにとても感謝している。今後とも商店街として何かできることがあれば積極的に協力していきたい。」と温かい言葉を頂き、第一部のセレモニーを終了しました。



▲イベントの受付をする子どもたち。

## 第二部 まち研最後のイベント 大賑わい

クロージングイベント第二部では、前半に「まち研クエスト」、後半にケーキのデコレーション作りを行いました。第二部には、小学生10人と卒業生5人が参加してくれました。まち研クエストとは8つあるミッションをクリアすると景品が貰えるイベントです。

ミッションは、まちかど研究室にちなんだまち研クイズと平成の出来事をまとめた平成クイズ、大学生とチェキ

を撮る、あっち向いてはいなどを学生が考えました。参加した小学生や卒業生、教職員の方々は大学生と交流しながらクイズに答えたり、あっち向いてはいをしたりして楽しんでいました。クイズには難しい問題もあり、大学生にヒントをもらったり、一人でじっくり考えながら解く子もいて、多く正解した子たちは喜んでいました。

ミッションの中には「〇〇を探せ!」という、まち研のこれまでの活動写真パネルの中からお題の物を探すミッションもあり、子どもたちは必死に目を凝らしながらお題の物を探していました。お友達同士で競い合ったり、ミッションに挑戦していたり、親子で協力しながらクリアしていく子もいました。

### おやつにケーキ作り

第二部後半では、参加者のみんなでケーキのデコレーションを楽しみました。



▲スタンプをためると、まち研グッズがもらえました。



▲お題のものは見つかるかな・・・?

た。ゼミ生が焼いたホットケーキに生クリームやジャム、クッキーなどを乗せてデコレーションを楽しみました。彩り良くカラフルに仕上げたり、何段にも重ねて大きいタワーにしてみたりと、個性溢れるデコレーションでした。いろいろなデコレーションを楽しみながら、みんなお腹いっぱいになっていました。お互いに出来たケーキを見せ合ったり、写真を撮ったりして良い交流の場になりました。

### 感謝の思いを込め

#### メッセージ書き

ケーキを食べ終わったら、最後にまち研へのメッセージを書いてもらいました。小学生や卒業生、教職員だけで

なく、一部のセレモニーに出席してくださった商店街の方にも書いて頂きました。「まち研が無くなって寂しい」「まち研ありがとう」など多くの心のこもったメッセージを頂きました。頂いたメッセージは7月末までホワイトボードに張り、まちかど研究室に展示しました。



▲デコレーションを楽しむ子どもたち。





▲店舗の前で流しそうめん大会(7月カフェ)

# 特集! 新潟産業大学 × 新潟工科大学 まちかど研究室

## その2

### カフェ & 季節のイベント



まちかど研究室では毎月1週間、勉強カフェや季節に合ったイベントを行っています。昨年度から引き続き3、4年生合同で様々な活動に取り組んでいます。このページでは、今年度のクロージングセレモニーまでの活動を振り返ります。



▲星野学長、梅比良理事長と記念撮影!

## えんま市に出店 しました!

毎年6月14日、16日に開催されるえんま市に、今年度も出店しました。権田ゼミでは、昨年度に引き続き大学×地域コラボ商品とドリンク販売に加え、新たにおもちゃのつかみどりやぷよぷよすくいを行いました。また、新潟工科大学は、学生が新パッケージのデザインに携わった「良寛コーヒー」の販売をしました。

最終日の16日は悪天候のため、えんま市の長い歴史でおそらく初めての開催中止となってしまいました。14日、15日も週末開催であったため、2日間だけでも多くの来客があり、大変賑わいました。



▲天候も良く、大盛況でした♪(15日)

## 5月

5月カフェでは、遊びカフェを開催しました。最初の3日間は行事や天候の影響なのか、客足が遠のいていました。

しかし、最終日には小学生と大学生が何人も来店してくれました。この日はキャンダル作りを行い、各々好きな色で色付けをし、手のひらサイズの可愛らしいキャンダルが完成しました。

また、今年から中学生になった子や昨年カフェのお手伝いに来てくれた高校生も遊びに来てくれました。学年が上がってもまち研に足を運んでくれる子がいることは、嬉しく感じました。



▲大学生と様々な遊びで対戦!



## 全員で仮装♪

毎年恒例になっている仮装しながらの販売。全員が人気キャラクターに扮し、接客をしました。仮装スタッフの様子に興味を示した方が多く集まり、店の前が人であふれた時もあり、今年も仮装は大人気でした。

さらに、えんま市の2日間、ゼミ生だけでなく後輩や他の学生も駆け付け、一緒に販売を行いました。何があっても臨機応変に対応し、忙しくても笑顔を保ち、楽しく行うことができました。卒業生もたくさん訪れ、久々の再会など、それぞれ充実したえんま市になったのではないのでしょうか。



▲ぷよぷよすくい、大人気でした!

## 7月



▲流しそうめん2回戦目!

7月には、まちかど研究室旧店舗での最後のカフェとして「ちよっと昔の遊び」をテーマに営業しました。火曜から木曜までの3日間では、輪投げやパターゴルフなど室内でもできる遊びを行い、大勢の子どもたちで賑わいました。最終日の七夕パーティーでは、昨年までも大人気だった流しそうめんとかき氷のふるまいをしました。店舗の前に竹を設置し、本格的な流しそうめんを行うと、子どもたちは我先にとそうめんをすくい上げていき、とても楽しんでいる様子で、私たちも嬉しい気持ちになりました。大好評だった7月カフェは、最終日だけで47名、4日間合わせて約100名もの来客があり大変盛り上がりしました。

## 平成最後のクイズ大会

今年5月から元号が新たに「令和」となりました。それに先立ち、急遽、平成最後のイベントをしよう!と4月に「平成最後のまち研クイズ大会」を開催しました。平成の出来事をクイズ形式で振り返りました。クロージングイベントでのまち研クイズと合わせて、実際に出版したクイズの一部を掲載しますので、みなさんぜひ挑戦してみてください!

### おまけ

#### 平成&まち研クイズ

平成最後のクイズ大会・まちかど研究室クロージングイベントで出されたクイズです。あなたは何問解けるかな?

#### ☆平成クイズ☆

- ①平成6年にノーベル文学賞を受賞した日本人は誰?
- 1. 根岸英一
- 2. 川端康成
- 3. 大江健三郎

②平成27年に柏崎市に併設された中越沖地震メモリアル施設の名称は?

- 1. アルフォーレ
- 2. 市民プラザ
- 3. まちから

#### ☆まち研クイズ☆

①まちかど研究室は初期の頃、何を運営していた?

- 1. 駄菓子屋
- 2. おもちゃ屋
- 3. カフェ

②まちかど研究室があったのは柏崎駅前の〇〇通りである。

- 1. 駅仲通り
- 2. ニコニコ通り
- 3. ピッカラ通り

③まちかど研究室のシンボルマークの表情は?

- 1. ウインクしている
- 2. 怒っている
- 3. 無表情

何問正解できましたか? すべて正解のあなたは平成&まち研博士になれるかも?

7年の歴史に幕を閉じた旧店舗を拠点としたまちかど研究室。今後は「まちかど研究室」の名を残しながら、新しい拠点で活動していきます。

## 新拠点〈K・Vivo〉での活動をスタート!

これからのまちかど研究室の活動は、柏崎駅から徒歩約3分の所に位置する「K・Vivo 柏崎コワーキングスペース」にて行うことになりました。コワーキングスペース (Co-working Space) とは、会議室や打ち合わせスペースなどを共有しながら独立した仕事を行う共同ワークスタイルを指す言葉です。分野の違う人と席を共にすることでお互いに刺激し合い、新しいサービスやビジネスをつくりだす効果があるとされています。

K・Vivoは、オープンスペースとなっていて、オシャレな椅子やテーブル、観葉植物もあり、カフェのような雰囲気のある空間です。旧店舗より駅に近く人通りも多いため、より多くの地域の方々に私



▲新拠点K.Vivoで集合写真。



▲K.Vivoでミーティング。

たちの活動が見えるような拠点になっています。新拠点では、権田ゼミナールだけでなく他のゼミナールでも使うということもあり、大学生がまちなかに出て何かをやっているところを見ることができるとは、どのよう活用に地域の方と交流するのかが、またより認知されるためには何をすべきなのかを模索しながら、イベントや企画を考えていきたいと思います。

## 高校生との探究学習

〈KSPPI〉

今年度の新たな活動として、柏崎高校の「KSPPI」という探究活動に協力団体として参加することになりました。

「KSPPI」は、「柏崎サイエンスプロジェクト」の略称で、柏崎高校1年生全員が履修し、高校生が主体となって柏崎を元気にする方法や、柏崎の歴史についてなど様々なテーマをグループで決め、フィールドワークを通じてオリジナルの答えを見つける活動です。そのテーマの中で、まちかど研究室に興味のある高校生のグループのサポートとして2、3週間に1回のペースで高校を訪れて、共に活動しています。

## 高校生が考える 柏崎活性化

9月から始まった活動で、初回は高校生の各グループと大学生が顔合わせを行いました。各グループから「市外の人を柏崎に呼び込む活動」や「柏崎を盛り上げる企画づくり」など柏崎を元気にするための研究テーマが挙げられ、高校生も柏崎を盛り上げたいという思いがあるということがわかり、嬉しく思いました。



▲柏崎高校生との顔合わせ。

高校生と共にアイデアを練り上げます。

▼店主へのインタビュー。

が加わり、高校生が考えたテーマをもとに、誰をターゲットにするのか、どんなことをしてみたいか、やりたいことは何かなど、一緒に深く掘り下げ、探求しました。高校生の柔軟な発想と斬新な意見が多く出て、大学生も良い刺激を受けています。

また、11月18日の訪問では、あいにくの雨模様でしたが、実際に地域に出て店主さんとお話を伺ったり、市街地の様子を観察したりして、アイデアを形にするための情報収集を行いました。

今後は1月20日にブルボン本社ビルで開催される発表会に向けて、各班でのフィールドワークを通じて、高校生らしいオリジナルの提案を導き出せるように、協力して取り組みたいと思います。

KSPPIの活動を通して、高校生と共に協力し、若い人の発想、考えを貴重な意見と捉え、今後の柏崎の活性化・魅力発信に繋がりたいと考えています。



▼店主へのインタビュー。



文化経済学科  
アグリ・フードビジネス分野

## 金ゼミナール 活動紹介

金ゼミナールはアグリ&フードビジネスを学ぶゼミナールです。農業と食を軸に経済を考察し経験しています!大学の近くに土地を借り、季節に合わせた野菜やハーブ、果物の栽培、収穫、販売まで幅広く活動しています。今回はその活動内容を紹介します!



柏崎市にある谷根川(たねがわ)を見学している様子

## 新潟県を知るために!!



鯨波の観光いちご園でいちご狩り



良寛生誕の地である出雲崎の良寛牛乳を製造している企業へ訪問



夢の森公園での野菜販売

## 新潟県内の 企業見学

金ゼミナールは留学生と日本人学生と一緒に活動しています。留学生は日本の企業見学を出来る場面が少ないので、とても勉強になっています。時には3年生と活動することもあります。それぞれの将来を考えられる貴重な機会になっています!

## 野菜販売

金ゼミナールではゼミで栽培、収穫した野菜などを販売しています。栽培、収穫だけで終わりにせず、販売し経済を学んでいます。何も無いところから始まり、すべての事柄に携わることが出来るので、経験から身に着くことが沢山あります!

## その他にも

今まで紹介した活動以外にも

- ・新道柿団地の柿の木のお祭り
- ・堀菜園
- ・「縄文クッキー おうくんとかえんちゃん」 「良寛と貞心尼の歌物語」クッキーの企画及び商品化
- ・地域の観光資源・農産物PRのパンフレット5種類制作

など、多くの活動に携わっています!

## ゼミ生から

金ゼミナールでは留学生と日本人学生が様々な視点から多くのことを学び、これからの人生に繋がるよう、日々活動しています!金ゼミの活動をTwitterでも紹介しているのでは非、ご覧ください!

Twitter アカウント @KIMno\_en



## 活動の発表

「柏崎に関する研究発表会」では2014年の十日町市ビジネスコンテストに参加したことがきっかけとなり商品化を実現させた縄文クッキーについて発表しました!



金ゼミが制作した地域資源、農産物のパンフレット

# 地域経済政策

経済のグローバル化に伴い、地方経済の衰退が深刻化しています。経済以外にも食糧問題など様々な地域課題について、その現状を学びます。その中で、地域活性化に必要とされる「地産地消」の意義と取り組みについて、地域通貨の流通体験や農業に関するフィールドワークを通じて学修します。



担当教員：阿部 雅明 先生



私は地元柏崎市が好きで、もっと元気になるってほしいと考えているので、この地域経済政策の講義はとて勉強になりました。他の地域理解ゼミナールの講義も柏崎市の事や将来役立つことを学ぶことができ、勉強になりました。

(経済経営学科1年 高橋 悠)

## 「風輪通貨」で柏崎を元気に

阿部先生の地域経済政策の講義では、地域経済の現状、農業の現状と風輪通貨について学びました。私が印象に残ったのは、地域通貨である「風輪通貨」の講義で、地域通貨ゲームをしながら楽しく学ぶことができました。

風輪通貨の土台は自分の大学で作っているお米からできています。この通貨は、柏崎市の一部の飲食店・物販店・サービス店などで使え、ボランティア活動の参加で入手できます。風輪通貨は「ボランティア活動で地域に関心をもち、もらった通貨を柏崎市のお店で使用する」という、柏崎市に貢献できるサイクルになっており、凄いなと思いました。

## 【特集2】地域に学び、地域をおこす

# 地域理解ゼミナールとは？

地域理解ゼミナールでは、大学の学びの前半期（1、2年次）において、フィールドワークを重視しながら以下の6分野を柱に地域の産業・文化理解を深め、3、4年次の地域活性ゼミナールへの準備をします。

## 2019年度より新規開設！！



# 地域企業経営

地域（とりわけ企業）のこれからについて「知る+提案する」ことから学習します。前半は、新潟県燕三条エリアの事例を通して地域産業のビジネス・エコシステムを学ぶほか、ITサービスの活用で新たな価値を創造する地域企業の例を紹介しています。後半は、柏崎に関連した課題の解決方法をグループで話し合い、提案してもらっています。

担当教員：郷 香野子 先生



## 企業経営の課題から

### 学んだこと

郷先生の講義では、柏崎市の地域経済に関する基礎的な知識や仕組み、概念について理解することができました。講義では、地域企業の現状と課題を知り三つの視点から解決策を学びました。第一に、地域の産業連携によるビジネス・エコシステムについてです。問屋を使わずお店に直接商品を渡すことで、商品の価格を下げるができます。第二に、地域ブランドの育成についてです。ブランドエクイティやブランドエクイティモデル定義について勉強し、自分たちでもブランドも考えて発表しました。第三に、地域によるビジネスの最前線のITや新しいサービスを活用したビジネス活動についてです。シェアリング、SNS、クラウドファンディングの部分からメリットを知りました。

地域理解ゼミを通じて、地域企業が発展するまでにはたくさん課題とたくさん解決策があることを学びました。学んだことを活かして、柏崎市の発展に貢献していきたいと思いました。

(経済経営学科1年 和田 渚佐)

## 「地域の理解」から「地域の活性化」へ！

### 経済経営学科

- 経済分析・経済予測
- 地域振興政策
- 企業経営
- 企業会計

### 文化経済学科

- 創造的文化ビジネス
- 観光ビジネス
- アグリ・フードビジネス
- まちづくり・地方行政

# 地域文化

高齢化や人口減少で元気がない地域を活性化するには、その地域の個性を理解し、それをどう活かすかを考えなければなりません。柏崎には全国レベルの特徴的で優れた「文化」がいくつもあります。まずは、それらに触れることから始めます。

担当教員：梅澤 精先生

**柏崎の文化を学んで**  
私達は担任の梅澤先生から柏崎地域の文化について学びました。長岡に暮らす私にとつてあまり馴染みがなかった柏崎の文化ですが、木喰仏や良寛と貞心尼にまつわるエピソード、柏崎でよく知られた祭である「えんま市」の起源とされる蝦夷征伐や閻魔信仰の歴史など、計4回の授業で語られたことはどれも興味深く、同時に柏崎の地に古くから根付く文化の奥深さを知りました。また、私は後半に行われたフィールドワークでも地域文化のコースに参加しました。綾子舞会館をはじめとする四つの場所を巡る中で、実際に文化に触れてみたり、現地の人話を聞いたりしたことは、柏崎の文化についての理解を深めるうえでとても良い機会となりました。

(文化経済学科1年 平澤日南)

# 地域観光

地域観光の分野では、観光がベース産業として地域振興に深く結び付いていることや、柏崎市内の主な観光地・観光施設、伝統行事、イベント等を資料や映像を活用しながら紹介しています。またフィールドワークでは、地域資源を活かした「地域を外に開く」観光に触れることで、地域観光の効果など理解を深めています。

担当教員：春日 俊雄先生



**名所を歩いて 柏崎の魅力に気づく**  
地域観光の講義では、柏崎という地域についてどのような魅力があるか、どのようなものがあるかを学びました。講義の一環として柏崎の松雲山荘を見に行きましたが、実際に柏崎の名所を歩いてみるとその魅力に気づくことができました。私は柏崎の出身ではないので、この講義を通して柏崎についてよく知ることができました。

# スポーツ

「水球のまち・柏崎」を提唱する新潟県柏崎市では、水球のイベントを通じてまちおこし事業を行っており、昨今、日本全国および海外から注目されています。当該分野の講義では、「水球のまち・柏崎」について経済学の視点からアプローチし、フィールドワークではスポーツによるまちおこしの現場を視察します。

担当教員：佐々木 洋輔先生



# 地域農業・6次産業

日本では、生産から加工・流通・販売を多角的に行う6次産業化を進めることで農業の活性化を図り、ロボット技術・情報通信技術を活用するスマート農業の実現によって農業に大きな変化をもたらそうとしています。このような農業の変化について勉強し、地域の農業・食品産業の現場でのフィールドワークを通じて、この分野の体験を増やします。

担当教員：金光林 先生



十年越し！

地元柏崎の農業再発見

金先生の講義では、6次産業の仕組みや、現在の日本における6次産業化の推進、また柏崎での6次産業の取り組みなどについて学びました。僕は柏崎出身ですが、例えば新道柿は知っていても、柿の木のオーナー制度は知らなかったりと、柏崎の農業について初めて知ることも多く、興味深く学ぶことができました。

フィールドワークでは、金ゼミナールで様々な野菜を栽培している畑や、新道柿の作業所などを巡りました。新道柿の施設は小学校の頃に遠足で行った以来だったので、10年ぶりに訪れて、私個人としてもとても懐かしく、また自身が成長したことで、同じ市内でも私の住んでいる地域とは異なる「田舎らしい」風景が印象に残るなど、新たな発見がありました。

柏崎市内のことで未だに知らないことが多くあったことに気づくことができ、とても面白かったです。秋学期も楽しんで受講したいと思います。

(経済経営学科1年 白井聖也)



この経験を 地元佐渡で活かしたい

担当教員：権田 恭子先生



権田先生の講義では、「まちづくり」と地域を支えるコミュニティについて学びました。実際に柏崎の市街地に向いて、シャツターが閉まっている店が沢山ある商店街を見て歩くことで柏崎市の現状を感じたり、「かしわざき市民活動センター まちから」を訪問し、地域の人々の意見が反映されるコミュニティセンターのしくみについて職員の方から話を伺ったり、「中越沖地震メモリアル展示」を見学したりしました。こうしたフィールドワークを通じて、私は柏崎市が震災によって、苦勞を乗り越え、地域住民同士のコミュニティの結びつきを更に深めていったという事に驚きを感じ、同時にこのようにして柏崎市を災害前よりもよりよいまちへと発展させているということが凄いなと思いました。私は、将来自分の地元である佐渡を振興していきたいと考えているので、この講義は私にとってとても興味深く、地域振興のためになることを学ぶことが出来ました。

(文化経済学科1年 村川日向子)

# コミュニティ・まちづくり

今日の地方都市では、行政まかせではない、市民、特に若者世代が主体的に「まちづくり」を実践するための知識や技能の修得、そして実際にアクションを起こすことが求められています。大学生が地域で行動することの大切さを知ることから、地域理解の第一歩を踏み出しましょう！



# こんなところに行きました！

## 美しい庭園と茶道の歴史

寒香庵木村重義翁が収集した古書画、茶器類を季節ごとに展示しています。屋外茶席もあり、四季折々の庭園美を眺めながら気軽にお茶をいただけます。



### 木村茶道美術館

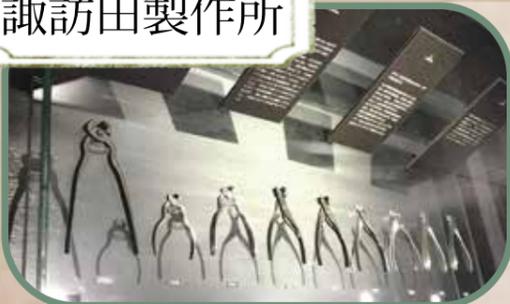
#### 〈好奇心と出会い〉

木村茶道美術館 館長 石黒信行

人は皆、幼少期では好奇心のカタマリでした。長ずるに及んで、何かのきっかけで興味が絞られて行きます。そのきっかけを提案することが馬齢を重ねた者達の責務だと常々思っているところです。詫び寂びや伝統工芸などは、カビ臭く面白くもないものと思わせないように、「これも面白いかも！」と目を向けてくれる様に願っています。



### 諏訪田製作所



## 町工場の技術を世界に発信

「刃と刃を合わせて切る」ニッパー方刃物の製造に特化し、つめ切りなど「美」を高める製品を生み出しています。燕三条地域の金属加工技術は今や国内外で高い支持を受けています。

## 「市民力」でまちの拠点に

「まちから」はみんなが楽しめるまちを目指して、市民の皆さんの活動を応援しています。また、「中越沖地震メモリアル展示」を常設し、災害の教訓を活かしたまちづくりを学ぶ機会を提供しています。



### まちから

2020年(令和2)年度には、2年生対象の「地域理解ゼミナールⅢ・Ⅳ」が新規開講。地域への理解をさらに深め、3、4年次の「地域活性ゼミナール」での、より実践的な地域課題解決につなげていきます。



2019年度1年次「地域理解ゼミナール」

# フィールドワーク

夢の森公園やアクアパーク、綾子舞会館に原子力発電所などなど。地域理解ゼミナールでは、教室で学んだ知識を元に、フィールドワークを実施します。理論と実践を連動させる学びによって、学内だけに留まらず、地域企業・地域コミュニティ・保護者・柏崎市・他大学と協働し、将来社会に求められる地域リーダー人材を育成し、地域社会に輩出していきます。

1、2年次から実践(フィールドワーク)があるのは新潟産業大学の魅力のひとつ！



▲柏崎の中心市街地を歩くことで、地方都市の課題を肌で感じる。

▼大学隣接の「夢の森公園」ですべて手作業の米づくり体験。



▲黒姫神社境内にある樹齢800年と言われる大杉。以前は「綾子舞」現地公開の際にこの大杉の下を舞台として上演していた。

## 注目

日本経済新聞社が全国の国公立大学を対象に「地域貢献度」調査を実施

本学はなんと！！  
新潟県内の私立大学で **1位**  
県内国公立大学を含め **3位**  
全国総合ランキング **149位**  
という結果に！

これからも大学全体で、地域貢献活動に積極的に取り組んでいきたいと思えます！

柏崎刈羽原子力発電所にこれから入るときはちょっと緊張しました。サービスホールで配布されたプリントには、福島原発の教訓、なぜ事故が起こったか、これからの原発はどのように改善していくかなど詳しく紹介されていて、色々考えることが出来ました。  
(経済経営学科1年 李前)

留学生も参加しました！

「教室での学び」ではわからないことがたくさん！



新しい発見だらけ！  
もっと知りたくなった！

# たかだ竹あかり

9月21・22日に高田コミュニティセンターと飯塚邸の2会場でたかだ竹あかりが行われました。昨年より来場者も多く、初めての試みである百万遍念仏も行われ、大盛況でした。

## 歴史ある建物で 月待ち行事を再現

今年度で6年目となる「たかだ竹あかり」イベントは地域の方々の高齢化によって整備が行き届かず、荒れた地域の竹林を伐採して竹林整備を行い、その伐採した竹の有効活用をするという目的があります。

会場は高田コミュニティセンターと柏崎の地主として栄えた飯塚家の邸宅「史跡・飯塚邸」で開催されました。高田コミュニティセンターでは、細工を施した竹灯籠からもれる色鮮やかな光を楽しむことができ、「史跡・飯塚邸」では庭園「秋幸苑」が竹灯籠に照らし出される幻想的な風景を楽しむことができます。

昨年度は8月の暑い中での開催でしたが今年度は従来通り「十五夜」や「二十三夜待」など月にまつわる行事を意識して9月に開催されました。今年度は月待ち行事「二十三夜待」の復活として21・22日に開催されました。

## 地域の方にもご参加 いただきました！

飯塚邸会場のイベントとして今年度は1日目に「百万遍念仏」が行われました。「百万遍念仏」とは1333年に「善阿」という僧侶が7日間にわたって百万回念仏を唱えたとする疫病が鎮まったことから始まったとされています。

しかし一人で百万回の念仏を唱えることは簡単なことではないため、大人数で合わせて百万回の念仏を唱える方法が浸透して行きました。

百万遍念仏はアルゼンチンにも伝わり、日本では三拍子か四拍子のリズムで念仏を唱えますがアルゼンチンでは二拍子で念仏が唱えられているそうです。今回は大きな数珠を囲みその数珠を回しながら念仏を唱える方法で百万遍念仏を行いました。アルゼンチン風の二拍子の念仏もやってみました。



▲百万遍念仏の様子。幅広い年代の方に参加頂きました。

## 暑さと闘いながら...

竹あかりの準備は、6月の中旬から始まりました。準備は地域の方々を中心に権田ゼミナール、高橋ゼミナールそして学友会メンバーの学生も参加しました。まずは竹の伐採です。約300本を伐採しました。この竹伐採は2回に分けて行われ、1回目の竹伐採は天候が悪かったため、私たち学生は、主に地域の方々が伐採してきた竹を切り揃える作業を行いました。



2回目の竹伐採では実際に地域の方々と一緒に竹伐採を行いました。竹伐採では切った竹を運んだり、枝を鉋で切り落とす作業を行いました。最初のうちは鉋で枝を切り落とすのは大変でしたが、次第に慣れてきてスムーズに進むことができました。

伐採の次は加工です。加工は最初の竹伐採時を入れて4回行われました。2回目の加工作業では伐採し、運んできた竹の節を抜いたり、竹に穴を開けたりしま



## イベントいっぱい！

今年度は2日間とも昨年度を上回る来場者となりました。台風の接近により小雨の降る時間帯もありましたが、中止になることなく無事に終了できました。ありがとうございました。飯塚邸では1日目には百万遍念仏、2日目には「アンサンブルセラレーナ」のみなさんによるソプラノ、フルート、ピアノのコンサートが行われました。また両日ともに茶室でお茶も楽しめました。

一方、高田コミュニティセンターでは夏休み中に学生が作業に参加した竹灯籠や、地域の方々によって色が塗られた竹灯籠が色鮮やかでした。高田コミュニティセンター内では筍ご飯や団子、タピオカ、水ようかんなど手作りの品々が販売されていました。

▼高田コミュニティセンターの竹灯籠も綺麗！



当日は地域実習で柏崎に滞在していた大正大学の緑川さんも参加くださり、一緒に作業を行いました。私たち学生の担当は開場前の竹灯籠の設置や点火作業、開場後は入り口での受け付けや飯塚邸庭園内の順路の誘導、飯塚邸内の地域のコラボ商品などの販売でした。竹灯籠は綺麗でしたが、時間とともに灯籠内の蠟が溶けきり消えてしまふものもあり、私たちは巡回しつつ蠟の交換なども行いました。百万遍念仏やコンサートの司会なども学生がさせてもらいました。



した。

3回目、4回目の竹加工では竹に穴を開けるための記付けを行いました。今回高田コミュニティセンター会場では「不要竹の変身と整備した竹林のイメージ」ということで、長い竹筒に装飾穴を開けイルミネーションが綺麗に見えることを意識して作られました。竹伐採、加工の作業には全体で19名の学生が参加しました。昨年までは竹に色を塗ったりもしていましたが、今年は様々な模様の穴をあけ、そこからもれる光で会場が綺麗にライトアップされるような灯籠を制作しました。

## 竹あかりに参加して...

このイベントがきっかけで都心では味わうことのできない柏崎市ならではの底知れない「助け合いの力」を感じ、感銘を受けました。今後とも竹あかりというイベントが多くの人々の心に明かりを灯すようなイベントであり続けてほしいです。

(大正大学3年 緑川 由梨枝)  
2年生になって初めて竹あかりイベントに参加しました。準備では竹を切るのは力仕事で大変で疲れましたが、当日の竹がとても綺麗だったので来年も携わりたいと思いました。

(文化経済学科2年 菅原綾太)

◀当日の集合写真！多くの学生が参加しました。



# 地域連携活動ニューストピック 2019 夏～秋

## 西山町大津の田んぼに「えちゴン」が出現 「田んぼアート」に挑戦!

10月23日、気持ちの良い秋晴れの中、文化経済学科1年生14名が、西山町大津の「そば処 やまなか」さんの田んぼに、色分けされたもみ殻を使って、柏崎のゆるキャラ「えちゴン」を描く「田んぼアート」に挑戦しました。

今回の企画は、大津地区の加藤広孫さんたち「大津じい会」の皆さんが、稲刈りが終わった田んぼを活用して地域を盛り上げたいと考えたものです。隣には既に地



▲色分けされたもみ殻を用いて、設計図通りに形を整えています。



▲1時間足らずの作業で「えちゴン」が完成!!



▲えちゴンの隣には、地域の方がつくった「チョコちゃん」が!

【参加した学生のコメント】  
今回参加した田んぼアートの作業は、地域活性化の第一線に立つような気がして、それに僕たちも地域を盛り上げたんだっていう実感が湧いて、なんだか誇らしい気分になりました。あと、やっぱり一仕事終わった後の蕎麦は格別でした。ご馳走様でした!

(文化経済学科1年 吉越耀)



域の方によってNHKの番組で人気の「チョコちゃん」が描かれていて、手順などを丁寧に指導いただいたおかげで、1時間足らずで「えちゴン」が完成しました。  
作業後は皆でご主人の手打ち蕎麦とケーキをごちそうになりました。働いた後のお蕎麦の味は格別で、疲れも吹き飛びました!今回の体験で、地域連携活動に興味をもってくれた学生もいたのではないのでしょうか?



▲作業の後の手打ち蕎麦は格別でした!

## 大正大学学生と 大洲地区をまちあるき

10月1日、柏崎に地域実習で滞在されていた大正大学地域創生学部の皆さんと、権田ゼミナールの3、4年生で、歴史的、文化的な地域資源が凝縮されている大洲地区のまちあるきを行いました。大正大学の皆さんは1年生が中心でしたが、今回コーディネーターを務める3年生の対比地彩音さんは、2年前の地域実習でも柏崎に6週間滞在し、「ただ竹あかり」や紅葉祭の模擬店などで、権田ゼミの活動に協力してくれた学生さんで、今回の合同実施を提案してくれました。



▲大正大学の皆さん、極楽寺の籠島さんと。

今回のまちあるきでは、産大生大正大学の混合チームで散策しました。「発掘隊」では、事前にルートは決めずに、出会った地域の方にもどんどんお声がけして、気になる地域の資源を発掘。「深掘り隊」は「かわさき観光ボランティアガイド」を務める極楽寺の籠島明子さんに解説いただき、より深い地域の魅力を学ぶことができました。

実際に地域を歩くことで、新しい発見や地域の良さなど見つけることが出来たことは、貴重な経験となり、これからのゼミ活動などに役立てていきたいです。

また、10月24日には「まちから」にて「地域実習成果報告会」が開催され、そちらには、「地域理解ゼミナール」で産大1年生10数名が参加し、大正大学1年生の立派な発表に大変刺激をもらいました。

## 長岡アイデアキャンプ 「あいキャン」で 最優秀賞を受賞!

私は8月30日～9月1日の3日間に行われた「ながおか・若者・しごと機構」主催の【長岡アイデアキャンプ】に参加し、最優秀賞をいただきました。「あいキャン」とはアイデア実現に向けプランを立て、最終プレゼンで賞を取ったチームのアイデアを実際に形にするというイベントでした。

1日目はそれぞれのアイデアを公開し、仲間を集めてチームを作り、2日目はアイデア実現のための計画を練り、中間発表をして、3日目に中間発表でもらったアドバイスをもとにアイデアを改善し、最終プレゼンをします。私は、デザイナー、プログラマー、イラストレーターの方たち、計4人で長岡に特化した素材



▲最優秀賞受賞の記念撮影 (左が産大の佐藤くん)

サイト「長岡素材サイト-CRICO-クリコ」という企画を考えました。この企画の目的は、「地域の学生やクリエイターの持て余していたり、埋もれている技術や能力を発揮できる場を提供しつつ、彼らの利益になるような仕組みをつくりたい」「地域の素材がほしい、地域の学生の技術や能力を業務に活かしたい企業と学生やクリエイターをつなぐ仕組みをつくりたい」「学生を地域に根ざしたい」「その両者がいつでも繋がれる、素材という手段を使ったWebサイトを作りたい」などがあります。今後の事業として【Webサイトの製作】【素材提供者のためのワークショップを開催(2回を予定)】を計画しています。これからも企画を見直しながら、実現に向け頑張っていきたいです。

(経済経営学科1年 佐藤龍汰)



▲社会人のクリエイターの皆さんと打ち合わせを重ねています。



▲ポスターは大学にも掲示されました!

## 柏崎市議会「意見交換会」 ポスター・チラシを制作

11月18～21日開催の柏崎市議会主催「意見交換会」(昨年度までは「議会報告会」として開催)の告知ポスターとチラシを本学学生が制作しました。この取り組みは今年で4年目となり、プロも使用するデザインソフトを駆使して制作、今回は1年生3名の作品が採用されました。

ポスターは文化経済学科1年市橋輝紀さんの作品で、公共施設などに広く掲示されました。また、チラシは市内全戸に回覧板の形で配布されました。

ほかにも地域のキャラクターやマークの手書きによるデザインを、実際に使用できるようにパソコンでデザインし直す作業の依頼なども増えています。産大生の手掛けたデザインを地域で探してみてください!

# 速報！ 日経新聞社「大学の地域貢献度調査」 新潟産業大学は県内私大1位！

全国ランキング 149位 / 548大学 多方面での地道な活動評価

日本経済新聞社が全国755の国公立大学を対象に実施した「地域貢献度調査」で、この度、新潟産業大学は新潟県内の私立大学の中では1位、国公立大学を含めると県内3位、全国総合ランキングでは149位という結果でした（548大学が回答）。

ランキングは「大学の組織・制度分野」、「学生・住民分野」、「企業・行政分野」、「グローバル分野」、「働く場としての大学分野」の5分野で評価され、全学的に多方面で地道な地域貢献活動に継続的に取り組んできたことが、このような結果に結びつきました。

新潟産業大学は「地域実践教育大学」として、これからも地域連携活動に取り組んでいきます！

## スマホで楽しもう！ 学生制作 刈羽村・柏崎市PR動画

平成30年度に権田ゼミナールで制作した刈羽村観光PR動画「刈羽村のいいところ探検隊」と、まちかど研究室で制作した柏崎PR動画「みしてかしわざき」がYouTubeで視聴できます。動画を観て、刈羽村、柏崎市の魅力を発見してくださいね！

刈羽村  
桃・農産物 編



刈羽村  
スポーツ・文化 編



刈羽村  
歴史 編



刈羽村  
フォトコンテスト 編



柏崎市  
ここの名は。



柏崎市  
LET'S 検索！ 柏崎



まち研をはじめとしたゼミ生たちの活動を見てね！▶

◀柏崎PR動画にはえちゴンも登場してるゴン！

まちかど研究室  
(新潟産業大学権田ゼミ)  
Twitter



産大生と地域のかけ橋  
ローカレッジ Vol.10  
2019年12月7日発行

編集・発行責任者  
新潟産業大学 経済学部講師  
権田 恭子

※この冊子に関するご意見・ご感想をお寄せ下さい。  
今後の参考にさせていただきます。

〒945-1393 柏崎市軽井川4730番地  
新潟産業大学 地域連携センター  
TEL: 0257-24-8441  
FAX: 0257-22-1300  
Email: renkei@ada.nsu.ac.jp

2019年度の新潟産業大学における地域連携活動は、新しい時代の訪れとともに、大きな転換、飛躍を遂げた1年であったと言えます。1点目は、7年間柏崎市委託事業として継続してきた、空き店舗活用事業「まちかど研究室」の事業終了と、大学の独自事業としての再出発。2点目は、今年度入学生から導入された1、2年次必修科目としての「地域理解ゼミナール」の開設。今回の特集記事としてご紹介した2つの出来事によって、「地域実践教育大学」を目指す本学における大学地域連携活動は、一段高次の段階へと進展を遂げています。

記念すべき第10号を迎えた本誌では、これまでにない比重で、多くの1年生が登場しています。今まで3、4年次のゼミナールが中心であった地域連携活動ですが、「地域理解ゼミナール」の新設を受けて、地域の課題に興味関心を持ち、自らが地域に貢献することに使命感を持つ学生が増えていることを、日々肌で感じています。彼らが上級生になったとき、地域にとってこれまで以上に必要とされ、頼りにされる存在として成長を遂げてくれることを今から楽しみにしています。まだまだ手探りで歩を進めることも多々ありますが、今後とも地域で奮闘する産大生を温かく見守り、ご指導いただけますよう、よろしくお願い致します。

編集スタッフ：文化経済学科4年 権田ゼミナール  
五十嵐 滉貴 小川 琴音 笠原 如乃 金子 佐和子  
文化経済学科4年 金ゼミナール 菊地 若菜  
文化経済学科3年 権田ゼミナール 齊藤 千紘 三浦 義人

※この冊子は、2019年度新潟県大学魅力向上支援事業「新潟産業大学 地域実践教育（地域に学び地域をおこす）の更なる強化事業」補助金を受けて制作しました。